

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名			
○保護者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの興味関心を活かした多様な活動(IT活動・体験活動など)を通して、主体性や成功体験を育む支援を行っている。	プログラミング活動や創作活動、体験活動など、子どもが「やってみたい」と思える意見を活動を取り入れ、スモールステップで成功体験を積み重ねられる支援を行っている。また、活動内容は職員間で共有し、子どもの特性に応じた支援を意識している。	児童の興味や発達段階に応じた活動プログラムの充実を図り、より多様な体験を通して社会性や主体性を育む支援を強化していく。
2	保護者や他事業所との連携を重点とし、子どもの成長や課題について家庭と共有しながら支援を行っている。	送迎時の会話や連絡デバイスなどを通して日々の様子を伝え、子どもの成長や課題について保護者や他事業所と共有している。また、保護者からの相談にも丁寧に対応し、家庭と関係機関と連携した支援を心がけている。	保護者との情報共有の機会をさらに充実させ、家庭での関わり方や支援方法についても共有しながら、より一体的な支援体制を整えていく。
3	職員間で情報共有を行いながら、チーム全体で子どもの支援を行う体制を整えている。	支援前後の打ち合わせや日々の記録共有を必ず行い、児童の状況や支援内容を職員間で共有し、統一した支援が行えるよう取り組んでいる。	職員研修や振り返りの機会を充実させ、支援の専門性向上とチーム支援体制の強化を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向けの研修や学習機会(家族支援)の機会が少ない。	日常的な連絡や相談対応、定期開催のヒヤリング等を行っているものの、保護者向けに体系的な学習機会や情報提供の場を設ける機会が十分ではない。	保護者向けの勉強会や情報提供の機会を検討し、子どもの特性理解や関わり方について学ぶ機会を作る。
2	地域の子どもの交流機会が十分とは言えない。	日常の療育活動を中心に運営しているため、地域との交流機会を計画的に設けることが難しい場合がある。また、地域行事や農地を活用したプロジェクトの発足はあるものの、地域連携や参加の機会は限られている。	地域イベントへの参加や地域施設との連携を検討し、地域の子どもの交流機会を増やす。体験活動やイベントを通じて社会参加の機会の輪を広げていく。
3	保護者同士の交流機会が少ない。	送迎時間や利用時間がそれぞれ異なるため、保護者同士が交流する機会を設けることが難しい状況がある。	イベントや参観、交流会などを通じて保護者同士が交流できる機会を検討し、保護者同士のつながりを支援していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	IPPOプログラミング長田校
------	----------------

公表日 2026年 3月 30日

利用児童数

41

回収数

33

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	31			2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	33					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33				いつ行っても清潔な空間だと思います。	利用者の意見を収集し、清掃を日常的におこない清潔で心地よい環境を維持しています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	32	1			子どもに合わせた関わりをしていただき感謝しています。	定期的にカンファレンスを開催。支援内容の見直しや利用者の意見を収集し、整合性を確保する仕組みを強化しています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32	1				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	32	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32	1			丁寧に考えて下さっているといつも思います。	放課後等デイサービスガイドラインに沿って具体的な支援内容を反映していますが、利用者の意見を取り入れ、個々に応じた内容を設定しています。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	33					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	31	2			子供目線でいつも色々考えて下さり感謝しています。	利用者の意見を取り入れ、柔軟性に考慮した活動プログラムを検討しており、興味や関心を引き出す新しい活動を導入しています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	2	5	16	地域の子と一緒にできるようなイベントをしてほしいです。	地域のこども達の活動の機会は限定的ですが、事業所として農地を活用した取り組みや、地域の祭りに出店し交流の機会を創出しています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33				いつも分かりやすく説明していただき安心してしています。	こどもの特性を理解した支援を実施する為に、保護者へ個別説明の機会を増やしています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	2	5	16	研修会や勉強会したいです。	家族も参加しやすい研修会や情報交換の場を定期的に開催し、支援の充実を図る場の提供を検討しています
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	33				日々の様子を共有していただき安心してしています。	日々の連絡や個別面談を通じて情報共有を行っています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31	1		1	子どもが精神的に不安定な時期に相談に乗っていただき、辛い時期を乗り越えることができました。	保護者との意見交換を充実させ、発達面や受験・進学等に関する相談の機会を設け協力機関との連携を強化します。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32				1	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	4	4	6	19	参観や兄弟の会との連携などをしているけれど嬉しいです。	保護者会や情報交換の機会を提供し、兄妹向けのイベントを計画し、家族全体で支援を受けられる環境を整えます。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24	1	1	7		
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	33						

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	32			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	32			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	2	1	6		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	23	3	1	6		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	1		4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	1		4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33				いつも楽しく安心して通っています。	個々の関心や興味に合わせたプログラムの導入や自由時間を充実させた提案等の工夫を行っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	33				先生方のおかげで1年1年成長を感じています。日々のご支援に感謝しています。子供が楽しめるイベントをたくさん企画して下さっていて、IPPOに通えるのを喜んでいます。	支援の質の向上を図る為に、個別支援の精度を高め、新たな支援プログラムの導入を取り入れています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
IPPOプログラミング長田校		2026年 3月 30日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		活動内容に応じて机配置や活動場所を調整し、子どもが安全に活動できるスペースを確保している。	活動内容に応じたスペース確保の工夫をさらに進めていく必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		児童の特性や人数に応じて役割分担を行い、個別支援が行える体制を整えている。	利用児童の特性により支援量が増える場合があり、より柔軟な配置体制の検討が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		活動場所や教材の配置を整理し、子どもが視覚的に理解しやすい環境づくりを行っている。	児童の特性に応じた視覚支援や環境設定について、さらに工夫を進めていく必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日々の清掃や整理整頓を行い、子どもが安心して過ごせる環境づくりを行っている。	活動内容の変化に合わせた環境整備やレイアウトの見直しを継続して行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		集中して活動したい場合やクールダウンが必要な場合に、落ち着いた過ごせるスペースを確保している。	利用人数や活動状況に応じて、より柔軟に個別スペースを確保する工夫が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	職員会議や日々の振り返りを通して支援内容の改善に取り組んでいる。	職員全員がより主体的に改善活動へ参加できる仕組みづくりが必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者アンケートを実施し、支援内容や運営についての意見を把握している。	いただいた意見をより具体的な改善につなげる仕組みを強化する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティングや日々の振り返りを通して職員間の意見交換を行っている。	職員の意見を継続的に集め、業務改善に活かす仕組みづくりを強化する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	外部(学校や他事業所)の意見や情報を参考にしながら支援の質向上に努めている。	第三者の視点を取り入れる機会を今後さらに検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		法人内研修や外部研修を通して職員の専門性向上に努めている。	研修内容を実際の支援に活かすための共有や振り返りを充実させていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		事業所の支援方針や活動内容を整理し、保護者に分かりやすい形（HP等）で提示している。	支援プログラムの内容をより具体的に発信し、理解を深めてもらう工夫を行う。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		児童の特性や保護者のニーズを把握し、個別支援計画の作成に反映している。	より客観的なアセスメント手法の活用を検討する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		職員間で児童の様子を共有しながら計画作成を行っている。	職員全体での情報共有の機会をさらに増やしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画内容を職員間で確認し、支援方針を共有している。	共有方法をさらに工夫し、より理解を深める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々の記録や行動観察を通して児童の状況を把握している。	記録内容を支援改善により活かす仕組みを強化する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		本人支援や家族支援など多角的な視点から支援内容を設定している。	より具体的な支援内容の設定を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員間で意見交換を行いながら活動内容を決定している。	児童の特性に応じた活動の幅をさらに広げていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		利用者や保護者にアンケートを実施し、意見が偏らないような取り組みをしている。季節行事や体験活動などを取り入れている。	新しい活動の導入を継続的に検討する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童一人ひとりの特性や支援ニーズに応じて個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っている。	集団活動の中でより多くの成功体験が得られるよう活動内容の工夫を継続する。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開始前当日の利用児童の状況や支援内容、職員の役割分担を確認し、安全で質の高い支援が行えるよう連携体制を整えている。	短時間でも効率的に情報共有ができる仕組みづくりをさらに検討する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後にはその日の支援の振り返りを行い、児童の様子や気づいた点、支援上の課題などを職員間で共有している。	振り返り内容を支援改善にさらに活かすため、記録と運動した共有体制を強化する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々の支援内容や児童の様子を記録し、職員間で共有することで支援の継続性と質の向上を図っている。	記録内容を分析し、支援計画や活動改善により活かす仕組みを強化する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的に支援計画のモニタリングを行い、児童の成長や課題に応じて計画の見直しを行っている。	モニタリング結果をより具体的な支援改善につなげる為に、利用者意見を取り入れる。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	5		生活能力向上、社会性の育成、余暇活動など、放課後等デイサービスの基本活動を複合的に取り入れた支援を行っている。	児童の特性に応じた活動の組み合わせをさらに工夫していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		児童が活動内容を選択できる場面を設けるなど、自己決定の機会を大切に支援を行っている。	より主体的な選択ができる環境づくりを進めていく。
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童の状況を把握している職員が会議へ参加し、具体的な支援内容を共有している。
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	学校や相談支援事業所等と必要に応じて情報共有を行い、支援の連携を図っている。	積極的な連携体制の構築を検討する。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		送迎時の情報交換や連絡を通して学校との情報共有を行っている。	ICTの活用など体系的な連携方法を検討する。
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		児童の発達状況を理解するため、必要に応じて情報共有を行っている。	連携機会を増やしていく。
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		児童の支援経過や特性について移行先へ必要な情報を提供している。	必要に応じてヒヤリングを行い、移行支援をより充実させる。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	地域の福祉機関と定例会議を行い、必要に応じて助言や情報共有を行っている。	専門機関との連携を強化する。
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	自社農園の農業体験を通じて地域活動やイベントなどを通して地域との交流機会を設けている。	地域の会議等に参画し交流機会をさらに増やしていく。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2	地域の福祉情報や支援動向を把握するため、必要に応じて地域の会議や協議等へ参加し、情報収集を行っている。	地域の会議や研修等へ参加し、得られた情報については職員間で共有し、支援の質向上や関係機関との連携強化に活かす。
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時の会話等、必要に応じて面談を通して日々の様子や成長の変化を保護者へ伝え、家庭と事業所が連携した支援を行えるよう努めている。子どもの成功体験や頑張りを共有することで、家庭での関わりにもつながるよう意識している。	保護者との情報共有の機会をさらに充実させ、より具体的な支援方法や家庭での関わり方についても共有できる体制を整えていく。
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		保護者からの相談に応じて、子どもへの関わり方や支援の工夫について助言を行っている。必要に応じて関係機関の情報提供なども行い、家庭での支援につながるよう努めている。	保護者が子育てに関する悩みや不安を相談しやすい環境づくりを進めるとともに、家族支援の機会をさらに充実させていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時に運営規程や支援内容、利用者負担等について丁寧に説明し、保護者が安心して利用できるよう努めている。不明点がある場合には随時説明を行い、理解を深めてもらえるよう配慮している。	資料の分かりやすさや説明方法を工夫し、保護者がより理解しやすい説明体制を整えている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画作成時には、保護者や本人の意向を丁寧に聞き取り、子どもの最善の利益を考慮した計画作成を行っている。	保護者や本人の意向をより具体的に反映できるよう、聞き取り方法の工夫や共有体制を強化していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		作成した放課後等デイサービス計画について、支援内容や目的を説明し、保護者の理解と同意を得た上で支援を行っている。	支援計画の内容がより理解しやすいよう、説明方法や資料の工夫を行う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者からの子育てに関する悩みや相談に対して丁寧に対応し、必要に応じて助言や情報提供を行っている。児童の様子を踏まえながら家庭での関わり方についても共有している。	相談しやすい環境づくりを進めるとともに、必要に応じて関係機関との連携も図っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	1	きょうだい同士で利用する日がある。行事やイベントなどを通して保護者同士が交流できる機会づくりを意識している。	保護者が参加しやすい形の交流機会を検討し、保護者同士のつながりを深められるよう工夫する。
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情や意見を受け付ける体制を整備し、保護者へ周知している。意見があった場合には速やかに対応し、必要に応じて改善につなげている。	保護者が意見を伝えやすい環境づくりを整える。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		SNS等を活用し、活動内容や行事予定などの情報発信を行っている。	保護者がより理解しやすい情報発信の方法を集計し検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		利用者の個人情報について、書類の保管場所の管理やデータの取り扱いルールを徹底し情報漏洩が起らないよう職員全体で意識を共有している。	個人情報保護に対する意識をさらに高めるため、職員研修や確認の機会を継続的に設けていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		児童の特性や理解度に応じて、視覚的な支援や分かりやすい言葉での説明などを取り入れ、意思疎通が円滑に行えるよう配慮している。	児童一人ひとりの特性に応じたコミュニケーション方法について、職員間で共有し支援の質向上を図る。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		地域のイベントや活動などを通して地域社会との関わりを意識し、地域に開かれた事業運営を心がけ、地域の中でも子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを目指している。	地域との交流機会をさらに広げ、地域理解の促進や子どもたちの社会経験の場を増やしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等を整備し、職員間で共有している。想定される事故や災害に備え、訓練を行い緊急時にも適切な対応ができるよう体制を整えている。	マニュアル内容の定期的な見直しを行い、実際の支援現場に即した対応力の向上を図る。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定し、災害発生時においても児童の安全確保と事業継続ができるよう備えている。避難訓練や防災訓練を実施し、職員と児童が安全に避難できる体制づくりを行っている。	災害の種類を想定した訓練の実施など、防災対応力のさらなる向上を図る。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		服薬状況や既往歴、てんかん発作などの健康情報を事前に把握し、支援時に安全に配慮した対応を行っている。必要な情報については職員間で共有し、緊急時にも適切に対応できる体制を整えている。	健康情報の更新や共有を定期的に確認し、より安全な支援体制を維持する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギーの有無について事前に確認し、誤食が起らないよう職員間で情報共有を行い安全管理を徹底している。	アレルギー対応についての確認体制を継続し、安全管理意識の向上を図る。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、事故防止や安全管理に関する研修や訓練を実施することで、安全な支援環境の維持に努めている。	安全管理に関する取り組みの振り返りを行い、より実効性のある安全対策を検討する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全対策や緊急時の対応について保護者へ説明し、安心して利用していただけるよう努めている。	安全対策の内容や取り組みについて、より分かりやすく保護者へ伝える方法を検討する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット事例を職員間で共有し、原因分析や再発防止策の検討を行うことで事故防止に努めている。	事例の分析を通してより具体的な予防策を検討し、安全管理体制を強化する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止に関する研修や情報共有を行い、児童の権利擁護と適切な支援の実施に努め職員間で意識を共有し、子ども一人ひとりを尊重した支援を行っている。	職員の理解をさらに深めるため、継続的な研修や振り返りの機会を設ける。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束を行わない支援を基本とし、必要な場合には手続きを踏み保護者へ説明を行っている。	身体拘束に頼らない支援方法の検討を継続する為に、日々の研修を怠らない。	